

情報セキュリティ 10 大脅威 2022

IPA (独立行政法人情報処理推進機構) 発表

2022.8. 29 更新

「情報セキュリティ 10 大脅威 2022」は、2021 年に発生した社会的に影響が大きかったと考えられる情報セキュリティにおける事案から、IPA が脅威候補を選出し、情報セキュリティ分野の研究者、企業の実務担当者など約 150 名のメンバーからなる「10 大脅威選考会」が脅威候補に対して審議・投票を行い、決定したものです。

昨年 順位	個人対象	順位	企業(組織)対象	昨年 順位
2 位	フィッシングによる個人情報等の詐取	1 位	ランサムウェアによる被害	1 位
3 位	ネット上の誹謗・中傷・デマ	2 位	標的型攻撃による機密情報の窃取	2 位
4 位	メールや SMS 等を使った脅迫・詐欺の 手口による金銭要求	3 位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	4 位
5 位	クレジットカード情報の不正利用	4 位	テレワーク等のニューノーマルな働き方 を狙った攻撃	3 位
1 位	スマホ決済の不正利用	5 位	内部不正による情報漏えい	6 位
8 位	偽警告によるインターネット詐欺	6 位	脆弱性対策情報の公開に伴う 悪用の増加	10 位
9 位	不正アプリによるスマートフォン利用者 への被害	7 位	修正プログラムの公開前を狙う攻撃 (ゼロデイ攻撃)	新
7 位	インターネット上のサービスからの 個人情報の窃取	8 位	ビジネスメール詐欺による金銭被害	5 位
6 位	インターネットバンキングの不正利用	9 位	予期せぬ IT 基盤の障害に伴う業務停 止	7 位
10 位	インターネット上のサービスへの 不正ログイン	10 位	不注意による情報漏えい等の被害	9 位

※「情報セキュリティ 10 大脅威 2022」解説書

 (PDF ファイルサイズ:5.3MB、ページ数:64P)

本資料は、2月28日に公開した「情報セキュリティ 10 大脅威 2022」解説書 [個人編] に
組織編とコラムを追加し、再編集したものです。